

第1回狩野川流域委員会 議事要旨

日時：平成27年9月30日(水) 15:00～17:23

場所：プラサヴェルデ 301・302 会議室

1. 開会

2. 挨拶

- ・中部地方整備局 沼津河川国道事務所長
 - ・中部地方整備局 河川部 河川計画課長
- 挨拶後、委員紹介及び資料確認

3. 議事

(1) 狩野川流域委員会規約(案)

事務局より規約(案)について説明し、出席委員6名全員の同意で承認されました。

(2) 委員長選出

委員の互選により田中委員が委員長に推薦され、出席委員6名全員の同意で承認されました。

(3) 「狩野川流域委員会」の進め方

「狩野川流域委員会」の進め方について、内容の確認を行い承認されました。

(4) 狩野川水系河川整備計画の概要

事務局より狩野川水系河川整備計画の概要について説明し、主に次のような意見をいただきました。

- ・現行河川整備計画を点検した結果、河川整備計画を変更する際には、必要な予算は確保されるのか。
→河川整備計画を変更する際には、必要な予算を確保していく。(事務局)
- ・中下流の平野部での平均年降水量が2,000mm前後とあるが確認する必要がある。
→2000mmという数字については、黄瀬川中流部付近での雨量のことである。
(事務局)
- ・現行河川整備計画の点検にあたり、流域市民の意見を点検に取り入れるために、意見聴取してはどうか。
→地域住民からの意見聴取の方法としてパブリックコメントを検討している。
(事務局)
- ・河川整備基本方針と河川整備計画の流量配分図を比較すると、来光川合流後と放水路における表記が異なっており違和感がある。
→基本方針では、大仁水位観測所 $4,000\text{m}^3/\text{s}$ 、放水路分派量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ 等を記載しているが、整備計画ではより多くの地点における流量を示している。
(事務局)

- ・環境の目標に対する具体的な実施内容が省略されているように感じる。
→環境目標に関する実施項目については、次の議事（５）狩野川水系河川整備計画の点検で説明する。（事務局）

(5) 狩野川水系河川整備計画の点検

事務局より狩野川水系河川整備計画の点検について説明し、主に次のような意見をいただきました。

- ・河川を取り巻く社会条件として、法律の改正や新たな通達により整備計画の見直しが必要な箇所があるか。
→平成９年に河川法が改正され、それ以降は水防法の改正などが主である。法改正や新たな通達を踏まえ、見直しする必要があるが生ずれば検討する。（事務局）
- ・河川整備を実施したことにより、景観や河川環境に影響があったか知りたい。仮に問題があった場合は、整備計画の見直しの際に考慮した方が良い。
→主な自然再生事業として沼津市大岡、函南町肥田各地区で実施。いずれも水際植生群落が増加傾向。柿田川については、自然再生計画に基づき事業を進めている。環境評価は３年毎に事業評価監視委員会の審議を受けており着実に前進している。（事務局）
- ・環境に関する目標は、あえて上流域・中流域・下流域を分けて目標を立てなくても良いと考えられる。
→上流・中流・下流に分けて目標立てするのではなく、河川全体として整理・確認する。（事務局）
- ・狩野川は、「南から北に流下」「複数の流域があり出水状況が複雑」「ダムがない」という特徴を踏まえると、河川行政によるインフラ整備だけでは限界があると考えられる。関係行政機関、沿川市町との協力を取り込んで如何か。
- ・従来、緩やかな流れを好んだカワムツが、流れのある所にも生息するようになり、オイカワが減ってきている。また、近年、アユの産卵期・遡上期が１ヵ月遅れているため、魚類の生息環境等の変化を確認した方が良い。
- ・河川整備計画を点検する際に、目標に対して実施した内容及び実施後の変化について検討すべき。
- ・一つの事象をとらえるのではなく、総合的に生態系を見て考えて欲しい。
- ・河川整備計画策定後約１０年経過したが、目標に対して実施した内容及びこの１０年間で新たに見えてきた課題や変化等を整理する必要がある。
- ・河川整備基本方針まで見据えた整備を進めるのであれば、堤内地まで踏み込んだ議論や、限界があることも考慮することが重要。
→上記の意見を踏まえ、今後の検討を進める。（事務局）

(6) 今後の進め方

狩野川流域委員会の今後の進め方について、承認されました。

(7) その他

平成２７年９月関東・東北豪雨について情報提供がありました。

4. 閉会